

マイスターに聞く

松田漆企画（京都市下京区、松田恭幸代表、075・315・0066）の松田代表は塗師と呼ばれる漆塗り職人、6月に独立していたが、家業でも仕事施設に積極展開する鋭意の若手職人だ。作品はこれまで上海万博の日本産業館や三越伊勢の店舗などの内装に採用された。伝統工芸の普及に取り組む松田さんに、職人としての心構えや今後の構想を聞いた。

（京都・今村博之）

「父親が塗師で、母親のは、塗師になつたきつかけ」

「昔からの工法を継承し

「昔からの工法を継承し

松田漆企画

代表 松田 恭幸氏



ていくことが伝統工芸と勝手にイメージしていたが、実際に入社してみると違った。例えば大型製品が得意だったので従来のハケ塗りだど作業効率が悪く、コンプレッサーを用いたスプレーガンを使って漆を塗って

いた。この業界でスプレーガンを使用しているところはない。漆は空気中の湿気と化学反応して硬化する天然塗料。同じ漆でもどのような条件下で乾かすかにより乾燥速度が変わる。スプレーガンで塗ると

めな希釈加減など塗料と相性は分業制で、さまざまな工程がある。（仏壇・仏具は数社しかない。漆は空気中の湿気と化学反応して硬さの感覚、乾燥速度はマニュアル化している。独立した理由は、

「塗師のほか錫面仕上げ販売し、みなさんに伝統工芸の魅力を知ってもらいた

また、きよゆき 高校卒業後、1995年（平7）に20歳で父親が経営する「松田仏具漆工芸」（京都市下京区）に入社。塗師の職人として下積み生活を送り、技能を磨く。

09年3月には第2回京都文化ベンチャーコンペティションの

文化レゾナンスモデル部門で、京都府知事賞、最優秀賞と近畿経済産業局長賞を受賞した。

京都の伝統文化のこれからを担う職人として期待されている。最近はず味でアルバイトを始めた。京都府出身 36歳

ステップ

伝統工芸を広めるため独り立ち

いと思った。しかし、社員時代は仏壇などの従来の仕事と而立でできなかった。上海万博などでの採用実績も出てきたため、独り立ちして、内装の新しいレゾナンスに専念しよう決めた」

今後どのように技能を伝えていきますか。

「目標は技能継承ではなく、『ショールーム』の開設。職人として技術力を磨いてきたが、それを見せたい。職人として技術力を磨いてきたが、それを見せたい。職人として技術力を磨いてきたが、それを見せたい。

（金曜日に掲載）

モノづくり

乾燥・希釈加減は漆と相談